HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	第3章 アイヌ民族の初職と職歴
Author(s)	西田, 菜々絵; 小内, 透
Citation	『調査と社会理論』・研究報告書, 33, 49-64
Issue Date	2015-05-15
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/59144
Type	departmental bulletin paper
File Information	AN00075302_33_49-64.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

第３章　アイヌ民族の初職と職歴

西田菜々絵｜北海道大学大学院教育学院修士課程
小内　　透｜北海道大学大学院教育学研究院教授

はじめに

本章では、白糠町周辺に住むアイヌの人々の職歴がどのような要因に規定されているのかを検討する。具体的には、アイヌの人々がどのような職に就き、どのような形態で働いているのかという視点に加えて、職の就き方にはアイヌ民族ならではの特徴があるのかという点を父母どちらともアイヌの血筋を持つ「両親アイヌ」、片親のみアイヌの「片親アイヌ」、アイヌの血筋が一切入っていない「和人」（養子あるいは配偶者）という３つのカテゴリーにそって特徴を浮き彫りにしていく。その際、アイヌの血筋を持っている者に関しては、アイヌの血筋を持っている親がいわゆるハーフやクオーターであっても、アイヌとみなし分析を行う。

第１節で父母どちらともアイヌの血筋を持つ両親アイヌの職歴分析、続く第２節では父母どちらかがアイヌの血筋を持つ片親アイヌの職歴分析、第３節ではアイヌの血筋を持っていない和人の職歴分析を行い、最後の第４節では白糠町周辺のアイヌ全体の特徴を探っていきたい。職歴分析に用いる指標として、初職の内容、どのように初職に就いたのか、初職に就いた地域をまず見ていく。そして、その後どのように転職をしていったのかを見ていき、アイヌの人々の職選びの特徴を捉えていきたい。それに加え、本人たちが仕事をしていて楽しかったことや辛かったこと、つまり職に関する「気持ち」の部分をインタビュー調査の結果から考察していく。

なお、本章では、今回のアイヌ調査対象者のうち、血筋が不明な者（１名）を除く47名を検討の対象とする（表３－１）。47名の性別は男性14名、女性33名で、両親アイヌが男性６名、女性15名の計21名、片親アイヌが男性４名、女性12名の計16名、和人が男性４名、女性６名の計10名となる。年齢に関しては、19歳から87歳まで幅広い層が対象者となっている。そのため、10代から30代までを青年層、40代から50代を壮年層、60代以上を老年層とし、分析を行う。また、今回の調査対象者で青年層の女性１名と老年層の女性１名が一度も職に就いた経験を持っていないが、その２名も必要に応じて検討の対象とする。

表３－１　白糠アイヌの世代別血筋

		両親	片親	和人	総計
青年	男性	2	3	1	6
	女性		8	2	10
壮年	男性	4	1		5
	女性	3	2	2	7
老年	男性			3	3
	女性	12	2	2	16
総計		21	16	10	47

第１節　両親アイヌの職歴分析

第１項　初職について

まず初めに、父母ともにアイヌの血筋を持っている両親アイヌの職歴から検討する。

今回の調査で両親アイヌに分類される対象者は21名おり、青年層２名、壮年層７名、老年層12名である（前掲表３－１）。男性６名、女性15名となり、女性が圧倒的に多い。とくに老年層は男性の調査対象者がおらず、女性だけのデータとなっている。また、この21名の中の老年層の女性１名が職歴を持っていなかった。

職業を規定する要因として、学歴も少なからず影響を及ぼすと考えられる。そのため、最初に学歴から見ていきたい。

表３－２　両親アイヌの学歴（職歴を持っていない老年層女性含む）

	小学卒	中卒	高卒	専修学校	専門卒	総計
青年			1	1		2
壮年		5	2			7
老年	1	8	2		1	12
総計	1	13	5	1	1	21

両親アイヌ21名の学歴は、表３－２のとおりである。対象者が青年層から老年層まで幅広く存在しているにもかかわらず、大卒者が１人もいないのが大きな特徴である[1)]。中卒が最も多く、続いて高卒となり、全体的に教育歴が短いことがわかる。教育歴が短いということは、教育歴が長い大卒者などが就くノンマニュアル職に就く道がある程度限られることにつながり、教育歴が短い時点で、アイヌの人々が就くことができる職種が限られてしまっているのも特徴の１つといえよう。

表３－３　両親アイヌの初職カテゴリー

		漁業・水産関係	農林業	民芸品店員	製造業（水産除く）	自動車・電気系	事務	接客業	その他	合計
青年層	男性	1							1	2
	女性									
壮年層	男性	2				2				4
	女性			1	1				1	3
老年層	男性									
	女性	1	3	3			1	2	1	11
合計		4	3	4	1	2	1	2	3	20

それでは、実際の初職はどのようになっているのだろうか。表３－３は、アイヌの人々の職の特徴を浮き彫りにするため、産業や職業の一般的分類ではなく、具体的な産業や職業の内容などにもとづいて、８つのカテゴリーによる職の分類を試みた[2)]。この分類で、人数が多いカテゴリーは「漁業・水産関係」と「民芸品店員」で４名が初職としてこれらの職に就いている。この２つの中で、とくに特徴的なのは、「民芸品店員」というカテゴリーである。これは一般的な職歴ではなかなか出てこないアイヌの人たちに特徴的な職である。

性別に見ていくと、男性は青年層の「その他」（警備員）１名を除き、「漁業・水産関係」と「自動車・電気系」に就いており、その以外のカテゴリーに就いている男性はいなかった。一方、女性は男性と同様「漁業・水産関係」を初職としている者が１名（老年層）いるが、それ以外は「農林

業」、「民芸品店員」、「製造業」、「事務」、「接客業」など、男性には見られないものが多い。女性の多くは、男性とは異なるカテゴリーの職に就いていることがわかる。つまり、性別によって就く職が分離されていると考えられる。

表３－４　両親アイヌの初職就職方法

		アイヌのつて	家族のつて	知り合い	学校の紹介	公募	不明	合計
青年層	男性		1		1			2
	女性							
壮年層	男性		2		1	1		4
	女性	2				1		3
老年層	男性							
	女性	2	5	1		1	2	11
合計		4	8	1	2	3	2	20

初職への就職方法を表３－４から見てみると、家族の「つて」を利用している者が８名、次に多いのがアイヌの「つて」となっている。両親アイヌの場合、家族の「つて」はアイヌの「つて」と同じになるため、アイヌの「つて」を利用して初職に就いた者は12名となり半数以上という結果になった。それ以外の方法としては、「公募」が３名、「学校の紹介」が２名となっているが、割合としては低い。両親アイヌの人たちは、自分たちと同じ血筋を持ったアイヌの人たちの「つて」を利用して就職している傾向があることがわかる。

このような「つて」を利用して職に就く地域には特徴があり、どのような地域にアイヌの人たちは就職していくのだろうか。表３－５を見ると、白糠および釧路、阿寒など白糠から近い地域に就職していることがわかる。「つて」を利用している人が多いためか、就職先の地域として地元白糠が圧倒的に多く、その次に僅差で釧路に就職した者、阿寒に就職した者と続く。ここで着目したいのは阿寒での就職である。阿寒で就職した者は４名とも「民芸品店」に就職しており、阿寒はアイヌの人たちにとって固有の仕事先がある場所として考えられているのかもしれない。道内その他、道外はいずれも１名しかいなかった。こうして、両親アイヌの人たちは白糠周辺で「つて」を利用して就職をしていることがわかった。

表３－５　両親アイヌの初職地域

		白糠	釧路	阿寒	札幌	道内その他	道外	合計
青年層	男性	1	1					2
	女性							
壮年層	男性	3	1					4
	女性	1		1			1	3
老年層	男性							
	女性	6	1	3		1		11
合計		11	3	4		1	1	20

ここで注意する必要があるのは、こうした両親アイヌの初職への就き方は、差別を背景にして生み出された側面があることである。インタビュー調査では、アイヌ民族であることに対する学校での「いじめ」の発言が数多く語られた。とくに、以下に示したように、壮年層のインタビューの発言（「差別されて学校で苦労している」「（学校は）いじめの場でしかない」など）から、学歴の低さはいじめによる可能性が見出された。ここではその点について深くは考察しないが[3)]、アイヌで

あることから受ける「いじめ」の存在がアイヌの人々の教育歴を短くさせ、和人の世界との離別を図り、自らがアイヌとして生きられる術としての「つて」を利用してアイヌの人たちが多くいる就職先を選んだのかもしれない。

【初職に就いた理由】

青年層
・卒業間際で、そういう会社の説明会が学校に来て、「ここ楽そう」と思って入ったから。決めた理由が「楽そう」だよね（笑）。楽そうだし入れそうだなと思ったから。
・おじさんがやっていたからやろうと思った。

壮年層
・経営している人がアイヌ民族の人で、私がそういうふうに差別されて学校で苦労している話を聞いていて、うちの店で働きながらアイヌの勉強をしてみないかというふうに誘ってくれたんですね。それで行くようになった。
・その頃は車好きだったんで、自分が好きだっていう事で、いざ行ってみたら、なんか違うなと。
・その、中学校卒業する前にその集団就職の話と内容は聞いてたから、そしたら母さん楽（に）な（る）んだったら、わたしも早く就職しようと思って。だから進学なんて、断念したんでもなんでもないの。嫌だった。（学校は）いじめの場でしかないから。それだったら、ねえ、仕事してお金稼いだほうが…。

老年層
・親が、あれも嫌それも嫌っていうから、「そこに行け」っていうので、「（民芸品）店員だったらおもしろいかも」って思って行ったんだけど、やっぱり面白くない（民芸品店）。
・別に学校からっていうわけじゃないけど、働きたいって言えば営林署で採ってくれたの。
・賄いの仕事が多かった。食べるに困らないから、「その仕事をやりなさい」と言われた。ずうっと若い時からやっていた。ずっとその仕事。
・親が困っていたから。親の知り合いだったから。親が小さい時に近所にいたおばさんだったんだって。「うちの娘使ってくれないか？」って聞いたら「いいよ」ってことで「安いけどいいか？」っていうから「安くても何でもいいから」って。

第２項　その後の転職

初職後の転職に目を移すと、両親アイヌの場合、転職回数については人によってかなりばらつきがある。転職を経験していない人が４名いた。家業の漁業を継いでそのまま転職を経験していないケースと、一度は職に就いたものの、結婚を機に専業主婦になって初職以降の職業に何も就いていないケースの２パターンであった。しかし、漁業に従事したり専業主婦になって職を辞めたりした

人以外は、何かしらの転職を経験しており、一番多い人で10回もの転職を経験していた。

また、以下のインタビューデータから読み取れるように、やはり転職時の求職方法も「つて」が多い。壮年層のインタビューの中にあった「学歴が低いため札幌などの都市部では就職先がなかなか見つからない」という言葉は、低学歴ゆえに就職先が限定されてしまっていることを表している。それゆえ、自分の親や知り合いの「つて」を頼って転職をしている。それだけではなく、正規雇用でしっかりとした労働に関する保証がなされている形態ではなく、非常に不安定な雇用形態で職に就いているため、家業以外の仕事に従事している人たちの転職回数が多い結果となっている。

【転職について】

青年層

・再婚相手の父親が元々漁師やってて面白そうだなーと思ってたけど、でも周りから「漁師はバカの人がやる仕事だから」って言われてたから、「漁師に手ぇ出したらもうそこから抜け出せないよ」って言われてて。これはもうダメなら俺、漁師でも良いなと思ってたから。楽しそうだし。俺の曾祖父ちゃんも漁師だったんだよね。

壮年層

・だってね、10何社受けたんだよ、全部中卒って書いたら、全部中卒はだめですって、札幌ってすごいなって思った。
・漁期間がなくなった時に、水道屋さんのアルバイトがあるよって言われて、その会社に入って、そのままずっと就職して。

老年層

・釧路でも有名なお店だったんですけど、そこの家にお手伝いに行ったんですよ。掃除したり洗濯したりご飯支度をしたり。その時は親戚の叔母さんの家だったので、楽しく仕事してましたね。半年ぐらいだったんですけど。その後、水産加工場に働きに行きましたね。
・阿寒湖にいる、その人の紹介で。阿寒湖の商店で３年働いた。

転職の多さは、それだけ職に対する苦しさが多いことを予想させる。だが、他方で、様々な職の経験を通じて、仕事に対するやりがいや楽しさを感じることもあったかもしれない。これらの点をインタビューデータから該当する部分を抜粋してみた。

【仕事に対するやりがい】

壮年層

・やっぱり白糠にいたらアイヌが下に見られる中で、阿寒湖はアイヌ民族を売りとしていると言ったらおかしいけど、そういう観光地だから、やっぱり自分でいられるというか、恥ずかしがらないでいられる場所でしたね。

・何あるかな…帰ってきて、一杯飲む時ぐらいかな（笑）

老年層
・すごくいろいろな患者さんがいるから、いろいろなことを話ししながら１時間もむのだから。すっかり仲間同士というか仲よくなって。
・そこ切れたら、切れたやつを早くつなげないと、そのいつまでもこう、何て言うの、それを走り回って歩く、だからそれが、任される台数が増える毎にそれが楽しみだった。あ、やってるって。負けず嫌いなんだよね。

【辛かったこと、大変だったこと】

青年層
・仕事覚える時だね。その時一番…うん。もう、ハンパでない。わや。

壮年層
・やっぱり働き出したら、それなりの厳しさもあるから、忍耐強くなったかな、その５年間で。ほかの職場と違って１年中休みのないところだったから。特別に誰か亡くなったとか、そういう時じゃないと休みがなかったから、忍耐力はつきましたよ。
・息子を育てるだけで夢中なだけですよ。別に仕事にやりがいがあるわけじゃないです。自分の生活のために。国のお世話にならないように、最低限それだけはと思って頑張ってきただけです。

老年層
・すごいハードな生活をしないと、普通の、子どもたちに満足した生活させられなかったんだ。父親いないしさ、汚い恰好をしていたらアイヌだっていじめられるしさ、やっぱりちゃんとした国語辞典でも何でも買って与えて、そういう生活をさせてたよ。だから体壊してひどい目に合っている、いま。
・お客さんが「お酒」って言ったらそこのコップに注ぐんですよね。で、注ぎ方が下手だったりちょっと量が少なかったりすると「お前、アイヌだべ」って言われるんですよね。

これを見ると、仕事で楽しかったことは人との交流、ふれあい、仕事での達成感などがあげられていた。しかし、仕事で苦労した事を見てみると、アイヌであることによっての差別的な発言を受けたことや、生活の苦しさだけではなく「アイヌだから」という民族性による差別から苦しい思いをしている人も多く見受けられた。けれども、アイヌの人々が多く従事している職種に就いている場合、白糠や北海道以外のいわゆる外の世界の人々に自らが関わっている仕事が誇り高い文化として見てもらえるため、「自分らしくいられる」と述べているのが印象的である。和人と同じような職に従事している人たちは、同じ地域の和人の差別的な目に悩まされたりするのと対照的であった。

第２節　片親アイヌの職歴分析

第１項　片親アイヌの初職

第１節では両親アイヌの職歴を見た。本節では、片親アイヌ、すなわち少なくとも両親のどちらか一方がアイヌの血筋を持っているアイヌの人たちの職歴について検討していく。

今回の調査で片親アイヌに分類されたのは16名で、うち青年層が11名、壮年層が３名、老年層が２名という世代に偏りがあるデータとなっており、その点だけ注意して見ていきたい。また、職歴を持っていない者も１名（青年層女性）いるが、職歴以外の分析では数に含めて検討していく。

最初に第１節同様に学歴から見ていく。表３－６を見ると、片親アイヌの場合も、青年層から老年層と幅広く分布しているにもかかわらず、大卒者がいないのが特徴である。片親アイヌは青年層の人数が多いが、両親アイヌ同様に中卒･高卒が多くなっている。学歴として一番多いのは中卒で、これはいずれの世代でも同様の結果となった。学歴だけで見てみると、両親アイヌの人々と大きな差異はない。しかし、血筋的にアイヌの血が薄くなると、初職の傾向は変わっていくのだろうか。

表３－６　片親アイヌの学歴（職歴を持っていない青年女性含む）

	小学卒	中卒	高卒	専門卒	総計
青年		6	5		11
壮年		1	1	1	3
老年	1	1			2
総計	1	8	6	1	16

初職の内容については、両親アイヌ同様に８つのカテゴリー別に分類を行った。その結果が表３－７である。

表３－７　片親アイヌの初職カテゴリー

		漁業・水産関係	農林業	民芸品店員	製造業（水産除く）	自動車・電気系	事務	接客業	その他	合計
青年層	男性	2							1	3
	女性	3		1	1			2		7
壮年層	男性					1				1
	女性			1			1			2
老年層	男性	1								1
	女性								1	1
合計		6		2	1	1	1	2	2	15

一番多かったのが「漁業・水産関係」で、６名がこれらの職に就いており、その次が「民芸品店員」､「接客業」で､それぞれ２名がこれらを初職としていた。つまり､初職に就いていたカテゴリーも両親アイヌとほとんど同じ結果となった。性別の特徴として､男性は「漁業･水産関係」､「自動車･電気系」、女性は「漁業・水産関係」､「民芸品店員」､「製造業」､「接客業」に就いていた。これも、両親アイヌ同様に男女ごとに就く職種が分離しており､「漁業・水産関係」以外は完全に男性と女性で就く職種が異なっていた。

では、これらの初職にどのような方法で就いたのか、そこに両親アイヌとは異なる傾向があるのだろうか。

表３－８　片親アイヌの初職就職方法

		アイヌのつて	家族のつて	知り合い	学校の紹介	公募	不明	合計
青年層	男性		2	1				3
	女性		1			6		7
壮年層	男性				1			1
	女性		1		1			2
老年層	男性							
	女性		1			1		2
合計			5	1	2	7		15

この点を表３－８から見てみると、片親アイヌの就職方法で一番多かったのが、「公募」、その次に家族の「つて」、という結果になった。「公募」はとくに青年層の女性に多く見られ、７名中６名がこれに該当していることがわかる。片親アイヌの場合、アイヌの「つて」で就職した者がいないのが両親アイヌとは異なる結果になった。片方の親が和人ということもあって、両親アイヌよりはアイヌの「つて」やつながりというものは、弱まっているのかもしれない。けれども、依然家族の「つて」を利用して就職している者は多く、「漁業・水産関係」や「民芸品店」といったアイヌの人たちに特徴的な職は「つて」を利用して就いている者が多い。先ほど見たように、片親アイヌの初職の内容で一番多かったのは「漁業・水産関係」であったが、とくに漁業は家業として営んでいる者もいるので、就職方法も家族の「つて」が多くなるのも理解できよう。

では、家族の「つて」や「公募」でどのような地域に就職をしているのだろうか。初職に就いた地域は表３－９のとおりである。一番多いのが白糠で６名、次に釧路が４名、その次が阿寒と道内その他でそれぞれ２名が就職をしている。両親アイヌの初職地域と比較してみると、白糠以外の地域に就いている者が多く見られ、とくに青年層にその傾向が強い。青年層の就職方法として公募が最も多かったことを考えると、白糠以外の地域の公募を見たり探したりして就職していくということであろう。

表３－９ 片親アイヌの初職地域

		白糠	釧路	阿寒	札幌	道内その他	道外	合計
青年層	男性	2				1		3
	女性	1	4	1			1	7
壮年層	男性			1				1
	女性	2						2
老年層	男性					1		1
	女性	1						1
合計		6	4	2		2	1	15

片親アイヌの場合、初職に就いた理由はどうなっているのだろうか。

この点について、インタビューデータから見ると、両親アイヌと同様にいじめが、血筋が薄まっても存在していることがわかる。それによって教育歴が短くなり、職を選ぶチャンスが狭まっているのは、片親アイヌの人たちにも当てはまることだった。血筋の濃さだけではなく、「アイヌ」とカテゴライズされる人々は、やはり和人同様の職業選択の幅が広いとはいいがたいのかもしれない。

【初職に就いた理由】

青年層

・いじめも高校に行ったらまたある、つらい思いしてどうせ中退とかしてまた迷惑かけるんだったら、最初から行くのやだっていって。学校ももともと好きじゃなかったので。それで15の時に就職してって感じですかね。

・そこは民芸品店だけじゃなくて、喫茶店も営んでるし、屈斜路湖にドライブインも持ってるし、アイヌ詩曲舞踊団っていうアイヌの踊りの舞踊団がいるんですよ、モシリっていう。それに憧れて、そこに入ったっていうだけで、民芸品を売りたくて入ったわけじゃない。

・うちに働きに来てた、その当時厚岸から来たんだけども、その人たちが、あの当時で22、3だったと思うんだけど、凄い面白い人たちで。その人たちと一緒に船に乗っていって、仕事っていうか。自分はその時まだ遊び感覚なんだけど。そういう感じで。

老年層

・漁師だからね、家の手伝いしててね、漁の休みの間ってあるのよ。春はトキ（注・サケの一種「ときしらず」のこと）が取れてね、夏は違う、いかとかそういうの取れたりするんだけど、その漁の休みの間があるの。で、夏はあんまり仕事ないんだけど、その時に、友達が阿寒湖、アイヌの友達がね、おじさんが阿寒湖で民芸品店やってたの。そこに遊びに行ったのね、夏ね。そしたらね、その友達が働いてたでしょ、で、そこのおじさんが何やってるって私に聞くからうちでいるって言ったらさ、夏の間はここの店手伝ってくれないかって、その友達と。だから結構面白かったね。

第２項　その後の転職について

片親アイヌのその後の転職回数を見ると、転職経験がないのは、初職が飲食店でアルバイトをしていた青年女性と漁業の青年男性だけであった。ここでも、転職経験がない人の中に漁師が含まれていた。

転職先の地域を見ると、白糠で就職している人が５名、その次に多いのが４名の釧路である。若い世代が多いせいもあってか、白糠、釧路、阿寒以外の地域でも職に就いている人が多い傾向が見てとれる。

転職の方法は、両親アイヌと同様、やはり「つて」などが多い。職業も前節で見た両親アイヌの傾向とそれほど変わらない。ただし、以下に示した老年層のインタビューから、白糠にはかつてアイヌの血筋を持ったリーダー的存在がおり、彼がアイヌ民族の世話をしていたことがわかる。貫塩喜蔵のような民族のリーダーが先導して、アイヌの人々の転職あるいは就職の世話をするというのもアイヌ独特の転職方法である[4)]。貫塩喜蔵のようなリーダーが先導して雇用創出を働きかけなければならないほど、当時はアイヌの人たちが職に就いたり転職をしたりするのは難しかったといえよう。

【転職について】

青年層
・狭い町だから、同級生が働いてたり。「アルバイトで使ってもらえないか？」みたいな。そんな感じで。

老年層
・やっぱり貫塩喜蔵さん、何でも、どこでも知っているでしょう。だから、その人の世話で白糠のアイヌ団体で（網走に）行ったの。
・３か月ぐらい、季節で。タコ縄のご飯炊きに行ったことがある。
・（民芸品店のような）同じような仕事。阿寒湖畔にずっといたから。同じような他のお土産屋さんとか､ホテルのレストランのウェイトレスとか。あとホテル前の清掃。アルバイトで。

仕事に対してのやりがいについて見てみると、アイヌとして生きられやすい職にやりがいを持ったというものもあれば、いろんな人とのコミュニケーションを取れるのがやりがいだというものもあり、人それぞれである。その中でも、やはり、片親アイヌの場合であっても、アイヌとして生きられやすい職に就く方が、そのままの自分を出せるため、アイヌとしては生きやすいのかもしれない。

辛かったこと、大変だったこととしては、民族差別や低学歴を理由になかなか安定した職に就けないことや、生活をしていくのに苦しくなったことがあげられていた。

【仕事に対してのやりがい】

青年層
・私が行ってるクリーニング屋さんっていうのは障害者の子たちが結構いるんですよ。そういう子たちが、上から目線で言うわけではないけど、そういう人たちも一生懸命やってるような仕事で、私も中途半端に仕事はできないなと思いながら。（中略…）アイヌは別に障害者でも何でもないけど、アイヌだからっていじめられて、嫌な思いをしたっていう時に、友だちが「そんなの気にするんじゃないよ」っていうふうに言ったりとか、そういうふうに言ってくれたと思ったら、陰では「あいつアイヌなんだって」って裏切る人もいるし、いろんな人を見てきたなっていうのは良い経験にはなったけど。
・アイヌって言われることを隠さないで住んでいられる町（阿寒）っちゅうか、いて当たり前の町でしょ、あそこ。だから、その辺では、うん、アイヌとして生きやすかったかな。

老年層
・やりがいあったのはホテルの大浴場の担当で働いた時だね。その時はいろんなお客さんが来て、いろんな世代、いろんな場所から全国から来て宿泊して。・・・あの時はやっぱり、いろんな人と話して、いろんな人との出会いが（あった）。毎日、宿泊するお客さん違うから。

・要するに、自分から、私アイヌだっていうことをお客さんに言えたの、観光客(に対して)。友だちも自分から、私アイヌ、メノコだよとかって言ってるのさ、そしたら写真のモデルとかなるんだよね、観光客と一緒に。アイヌ衣装着て。そういうのやっぱり、その頃は楽しかったね。

【辛かったこと大変だったこと】

青年層
・(アイヌであることを職場で) 全部隠してました。その時にもごまかしてました(笑)。会社にアイヌの行事があって休まなきゃいけないっていうような事情があったりとかした時には「ちょっと親戚の結婚式があって」とかそういうふうに言ってごまかしていましたね。
・つらいと言っている暇はない。大変だとか苦労してますねとか、そんなこと言っている暇はない。子どもたちが３人いるんだもの。悲しいねとかうれしいねとか言ってる場合じゃないんだって。
・苦労したことですか。やっぱり、中卒ということで、けっこう面接から落とされたりとか。あとは、給料に納得いかないことがけっこう。
・高校行ってればもうちょっといい会社に入りたかった。そういうところで、やっぱり仕事探したりしてもどこも高卒当たり前だから、そこで見誤ったなっていうのはあるけど。

老年層
・やっぱり職安にいた時かな、周りがシャモの人ばっかりだったから、職員がね。それに対してね、やっぱり中にはね、無知な職員がいて。(アイヌに対して) とんでもない質問をする。

こうして、片親アイヌの職歴傾向は両親アイヌとほとんど変わりがないと見てよい。事実、血が薄まっても、アイヌの人たちに特有の職が存在し、職についてからの民族差別があった。初職やその後の職歴の傾向は、両親アイヌの場合とさほど変わりがなかった。そのため、血の濃さ自体で職歴の傾向に変化があるとは考えにくいといえる。

第３節　和人の職業分析について

第１項　和人の初職について

第３節では、アイヌの血筋は持っていないが、結婚や養子としてアイヌの世界に入った和人の職歴を見ていきたい。

和人夫･妻に該当するのは 10 名であり、青年層が３名、壮年層が２名、老年層が５名となっている。この 10 名は全員何らかの職業に就いたことがあり、職歴を持っていない者はいなかった。

まず、前節に引き続き、和人の学歴から見ていく。

表３－10　和人の学歴

	小学卒	中卒	高卒	専門卒	総計
青年			2	1	3
壮年			2		2
老年	1	4			5
総計	1	4	4	1	10

表３－10を見てみると、青年層は専門学校卒が１名、高卒が１名、壮年層は２名とも高卒、老年層は中卒２名、小卒１名となっており、世代が若くなるにつれ学歴が上昇していることがわかる。しかし、すべての世代に、大卒者がいない点にも注目すべきである。和人であっても、全体としては両親アイヌ、片親アイヌと大きく異なった傾向が見られないといえる。

では、初職ではどうであろうか。表３－11を見ると、初職カテゴリーの中で和人が多く就いていた職は「事務」で、その次に多いのが「漁業・水産関係」となっており、両親アイヌや片親アイヌとは異なる傾向がある。アイヌの初職として多かった「民芸品店員」を初職としている者はおらず、「民芸品店員」は完全にアイヌの人たちに特有の職であることがわかる。

表３－11　和人の初職カテゴリー

		漁業・水産関係	農林業	民芸品店員	製造業（水産除く）	自動車・電気系	事務	接客業	その他	合計
青年層	男性				1					1
	女性						2			2
壮年層	男性									
	女性						2			2
老年層	男性	2				1				3
	女性		1						1	2
合計		2	1		1	1	4		1	10

しかし、初職の就職方法に関しては、家族の「つて」で就職している者が５名と最も多くなっており（表３－12）、「つて」を利用して就職する傾向はアイヌの人たちの就職方法と似ている。「公募」や「学校の紹介」も数名いるが、家族の「つて」ほど多くはならなかった。

表３－12　和人の初職就職方法

		アイヌのつて	家族のつて	知り合い（和人）のつて	学校の紹介	公募	不明	合計
青年層	男性				1			1
	女性			1	1			2
壮年層	男性							
	女性		2					2
老年層	男性		1				1	2
	女性		2			1		3
合計			5	1	2	1	1	10

さらに、表３－13から初職の就職地域を見てみると、白糠が３名、道内その他３名、次に続くのが釧路、札幌２名で、アイヌの人たちには見られなかった地域への就職傾向が明らかになった。アイヌの人たちは白糠・釧路・阿寒と白糠近郊の地域に就職している者が多かったが、和人の場合、白糠以外の地域に就職している者が少なくない。反対に、アイヌの人たちの中で就職先として考え

られていた阿寒に就職している者は和人の中にはいなかった。アイヌの「つて」はアイヌが多くいる地域や地元に根づいた「つて」であったのかもしれないが、和人の「つて」は特定の地域に根づいたものではないようである。

表３－13　和人の初職就職地域

		白糠	釧路	阿寒	札幌	道内その他	道外	合計
青年層	男性	1						1
	女性							2
壮年層	男性				2			
	女性	1	1					2
老年層	男性		1			2		3
	女性	1				1		2
合計		3	2		2	3		10

このように、和人とアイヌの血筋を持つ者とで、学歴の低さと、「つて」を利用した就職方法は同じ傾向を持っているが、就職先はアイヌと和人とでは異なっている。同じ低学歴で「つて」を利用した就職をしていても、アイヌの人たちは、アイヌの人々が多く従事している「漁業･水産関係」や「民芸品店」といった職場に就職をしていく。一方、和人は同じ条件でも「事務」の職に就くことが可能である。このようなことを見ても、アイヌの人々と和人との間で、職が異なっているのがわかる。しかも、転職を経ても、初職でも見たように、事務系の仕事に就く傾向は変わらない。

【初職に就いた理由】

青年層
・学校で就職活動をしてパン屋に勤めた。
・友達のお母さんが仕事を紹介してくれたので、「じゃ、もう働こう」と思って。

壮年層
・学校からの紹介で面接へ行って、入社しました。
・最初は親の会社の事務でずっとやってた。

老年層
・自分は、漁師。霧多布に、うちの親戚、父親の弟がいて漁師やってたもんだからね、自分は17歳の時かな、漁師に行ったんですよ。もううちも困ってたもんだから、その「おじさんのとこさ行け」って言われて。それで、漁師、３年霧多布にいたんだよね。

【転職について】

青年層
・銀行に求人広告をみて転職した。
・子ども服のところに働いていた時に、他の会社に引き抜いてもらって、それで 26歳から、

あ、違う、25歳から洋服屋で、別の会社に引き抜いてもらったって感じですかね。

老年層
・もう頭がないから、もう土方の仕事しかないって自分は思ってるから土方になったんです。
・ちょっと呉服とかそういうものを売りに来てた人たちがいて、その人の世話でね。知り合いでこういうのがいるからっていうことで、行ってみないかって言われて。

仕事でのやりがい、つらかったことも、和人の場合、アイヌの血筋を持つ人々のインタビューに出てきた内容とは異なっている。

しかし、興味深かったのは、和人でありながら、結婚とともにアイヌの世界へ入り、アイヌが多くいる職に従事している壮年層の事例である。アイヌの人々が和人の多くいる職場に入れば、アイヌの人たちが差別を受けることがあるのは今までのインタビューの中でも出てきた。それとは逆に、和人がアイヌの人たちに特有の職場に入った時も、同様に差別を受けるとのことであった。それを、和人の対象者は「逆差別」と表現していた。

これは、白糠のアイヌと住民（和人）の就く職の間に大きな見えない壁のようなものがあることを表していると考えられるかもしれない。そもそも、和人がアイヌに関係する職に就くことも多くはないのかもしれないが、和人がアイヌの多くいる職やアイヌに関係のある職に就いた際、アイヌの人々も和人が入ってくるのを好まないと考えることもできる。そのため、アイヌの人々に特有の職にはアイヌの人々の「つて」で就く者が多くなっているのかもしれない。

【仕事に対してのやりがい】

青年層
・いまの職業は、やればやるだけお金をもらえる、ということですね。どんどんどんどんお給料が上がっていくので、まだその上を見たいなっていう。
・ワープロを打つのが楽しかった。

壮年層
・やっぱりお金の事を任せていただけるっていうのは、信頼されているんだなっていう事で、やりがいはあります。

老年
・一応、自分はあんまり読み書きできないけどね、仕事の面では、実地だからね。うん、学科じゃないから、まあ先輩に怒られながらやっているうちに自分も仕事の面では覚えていたから、まあ仕事はやりがいはあったね。

【辛かったこと大変だったこと】

青年
・人間関係が大変だった。

壮年
・ああ、やっぱりアイヌが多くいる中に入りましたから、逆差別みたいなのはありますよ。「シャモのクセに」っていうふうに言われる事はあります。あとはそんなに、それほど辛いって思った事はないですけど。
・会社だから、書類がいっぱいあるんだよね。したらワープロなんて、今みたくパソコンみたく印刷とか早くないから、すっごい遅くて、だから夜中とかもずっと書類作りしてた。

老年
・やっぱり頭がなかったからね、それが一番やっぱりつらかったね。

第４節　まとめ

本章では血筋別に職歴分析を行い、アイヌの人々の特徴を検討してきた。その結果、アイヌの人々の職歴分析を行っていく中で以下のようなことがわかった。

まず１つ目は、アイヌ民族に特有の職があり、その職の代表例として「民芸品店員」と「漁業・水産関係」があげられることである。「漁業・水産関係」の職には和人でも就いている人がいたが、両親アイヌ、片親アイヌともに従事している者が多かった。そのため、やはり白糠周辺に住むアイヌの人たちに特有の職と考えられる。「民芸品店員」はアイヌの人、その中でもとくに女性が多く就く職であった。これらの職はアイヌの人たちが「つて」を利用したり、家業でそのまま就職したりする者がほとんどであり、学歴が低くとも就職することができるために従事している者が多かったと考えられる。職に就いていく上で民族性に対して差別されることもあるということがインタビューでも見受けられたが、アイヌの人々に特有の職に従事している人は、差別というよりもむしろ自分の文化に誇りを持ち自分を出していけるという特徴もあった。

２つ目は、学歴の低さゆえに就職の選択肢が狭められていることである。インタビューの中でもしばしば出てきた「いじめ」の問題も影響しているのかもしれないが、全体的にアイヌの人たちは学歴が低い。民族差別というよりも、学歴の低さで就くことができる職が限られてしまっている傾向もあるといえよう。初職に就いた方法として「つて」が多かった背景として、学歴の低さも少なからず影響していると思われる。

３つ目はアイヌ･和人ともに学歴の低さや「つて」を利用する就職方法は似ていたにもかかわらず、従事する職が異なっているということである。和人の人たちは事務職に就く人が多くいたが、アイヌの人々にはその傾向はなかった。そうした傾向を見ても、アイヌの人たちには特有の職や職場があると考えられる。また、それだけではなく、同じ学歴を持っていて、同じような方法を用いても、アイヌの人たちは和人と同じ職に就くことができないという傾向が見られた。このことは、和人に

開かれている職（今回の例をあげると事務職）がアイヌの人たちには同様な形では開かれていないことを意味していると考えられる。いずれにせよ、アイヌの人たちが就くことができる職が和人よりも狭いことは否定できない。

以上の３点をふまえると、アイヌの人たちは和人と異なる独自の職歴を持つということが明らかになったといえる。

今回明らかになった点に関して、今後白糠だけでなく、他のアイヌ民族が多く暮らす地域の職歴分析を行い、それぞれの地域ごとにどのような傾向があるのか、その中でアイヌ民族全体に共通する部分は何であるのかを見ていく必要がある。これは今後の課題となる。

注

１）学歴は中退も数に入れてカウントをしている。

２）本稿では、具体的な産業や仕事の内容を重視しているため、一般的な職業や職種の概念とは異なる「職」という語を用いる。

３）アイヌの人々の被差別経験については、本報告書第４章参照。

４）貫塩喜蔵は第２次世界大戦後、緊急開拓入植の対象地となった陸軍軍馬補充部釧路支部跡地の解放運動に中心的に関わり、そこにかつて奪われた給与地を持っていたアイヌの人たちを優先的に緊急開拓入植させることに貢献している。これも、アイヌの人々が職としての農業に従事するためにリーダーとして活躍した事例とみなすことができる。この点については、本報告書、序章第２節第３項を参照のこと。

参考文献

小内透編著 , 2014,『調査と社会理論･研究報告書 31　伊達市におけるアイヌ民族の現状と地域住民』北海道大学大学院教育学研究院教育社会学研究室 .

（西田菜々絵・小内　　透）